
あの日、 [リレー小説]

サークルO.L.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

ボックス発見！（前書き）

この作品はリレー小説で、
現在の参加者は（尖角・愛莉）です。

ただ今、参加者募集中であり、尖角から交互に書いていきます。

ボックス発見！

俺は目の前にあるものを眺めてみる。

今この瞬間、俺の目の前にあるのは、未来から送られて来たという謎のボックス。

それを俺が見つけたのは、今から三週間前のことである。

そして、俺はかれこれ三週間ほど学校に行っていない。

中学だから休んでいても卒業できるし、何より面倒だったからである。

そんな理由を付けて休んでいるわけだから、担任から電話はかかってくるし、さらに家に“訪問”とか言って来やがるから本当にウザいと言いたいようがない。

だが、幸いというか、なんといいのかは知らないが、俺には親というものがいない。

実際は母の方はまだ生きているが、毎日パチンコとか何とかで家にいないから、いないのと何も変わりはない。

とにかく、電話は電話線を抜いたからいいとして、訪問の方はどうしようもない。

だから、俺は暇つぶしのために家から少ししたところをウロウロしていた。

すると、見つけたのである。

場所は、公園のベンチの下。外見は、ただの紙袋。

しかし、なんだか紙袋は異様に膨れ上がっていて、その姿は《中身を見てください》と言っているように見えた。

だから、俺はその紙袋をベンチの下から上に置き直し、中身を見てみた。

すると、そこにあったのは、ダイヤルが五つとスイッチの付いているボックスと封筒に入った手紙。

俺はその封筒を開けて、中の文字を読んてみた。

すると、どうやらその手紙は、目の前にあるボックスの取り扱い説明書。

そして、そのボックスは最初のダイヤルから“西暦・月・日・時・

分”の順で数字を回しスイッチを押すと“過去に戻ることができる”という代物。

だから、“未来には行けない”。

それが、絶対的条件らしい。

だが、ここで気になることが一つあった。

それは、手紙の最後に書いてあった言葉で、《私利私欲で使うのもよし、ただし、公にするでない》という言葉である。

だから、俺は考えてみた。

自分にとっての“欲とは何か？”ということをして。

ボックス発見！（後書き）

では、二話目の愛莉さん、お願いします！！

謎(前書き)

担当：愛莉です。

謎

ところで

そもそもこのボックス、本当に過去に行くことができるのだろうか。

誰かのイタズラである可能性も十分ある。

そんな非現実的なモノが存在するとは、到底思えないのだ。

それに、どうしてこんな場所に置いてあったのだろうか。

中身を知っている人間が、あえてこの場所に置いたのだろうか。

誰かに拾ってもらったために？

とはいえ、ただのイタズラで作ったにしては手が込んでいるし、重量感もすごかった。

レトロな茶色いコーティング、ゴシック調の紋様が彫られている。

アンティークショップで売っていきそうな感じだ。

まるで何百年も前に作られたかのような。

でもまあ、考えてどうにかなる問題でもないし……。

「これは本当に過去に行けるものなんだ」ということにしておう。

取りあえず、俺にとって今一番ほしいものを考えてみる。

新作のゲームとマンガ。

高級な時計とかも持ってみたい。

あとは、学校に行かなくてもガタガタ言われない境遇。

わざわざ勉強しなくても高校・大学と行ける頭の良さ。

それに、可愛くて優しい彼女とか。

うーん……欲しい物はいろいろあるけれど、どれもいまいぢピンとこない。

“欲”は“欲しい物”というわけではないのかもしれないな、と思いつく。

というか「欲しい物を手に入れたい」という“欲”では、「過去に行ける」というボックスのポイントを全く生かしていないじゃないか。

「過去に行く」という観点から見ての“欲”を考えなきゃ……。

謎（後書き）

次回は尖角さん、お願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1001z/>

あの日、 [リレー小説]

2011年12月11日12時52分発行